

未来技術社会実装事業について(報告)

東浦町地域公共交通計画に基づく持続可能な地域交通体系の構築に向け、内閣府の未来技術社会実装事業を活用し、地域の移動課題解決に向けた検討を進める。

2026年5月15日に内閣府事務局及び関係省庁との事業概要説明会が開催され、本事業の概要、事業の進め方及び地域実装協議会の設立等について説明を受けた。

今後は、関係機関との協議を進めながら、地域の実情に応じた持続可能な移動サービスの検討を進めるとともに、既存会議体の活用を含めた地域実装協議会の位置付けについて検討を進める。

1 事業の概要

本町が提案した「交通空白地域の解消と共助交通の未来～自動運転技術による持続可能な移動サービスの社会実装～」については、内閣府の未来技術社会実装事業に採択されたものである。

本事業は、**自動運転技術**を活用し、**交通空白地域**における持続可能な移動サービスの構築を目的とするもの。

事業概要

提案タイトル	交通空白地域の解消と共助交通の未来～自動運転技術による持続可能な移動サービスの社会実装～
提案者	対象区域の概要
愛知県東浦町	東浦町は愛知県知多郡に位置し、面積は32.34平方キロメートル、人口は49,673人(2026年1月末時点)。農業が盛んなぶどうの生産地や徳川家康の生母、於大の方の出生地として知られています。

- **背景・課題** ※提案事業の目指す将来像、解決すべき課題をそれぞれ2行程度で簡潔に記載すること。

目指す将来像	・住民主体の持続可能な地域交通モデルの構築 ・未来技術を活用した効率的で安全な移動の実現
解決すべき課題	・地域交通システムの維持と改善 ・共助交通の推進と交通弱者支援の強化

(※) End-to-End学習型AIとはカメラやセンサーからの入力(入力データ)をそのままニューラルネットワークに入れ、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作(出力データ)を直接導き出す技術のこと。「認識から制御まで一気通貫」で行うため、「End-to-End」と呼ばれ、より人間らしく滑らかで、複雑な状況でも対応可能な完全自動運転への転換点として注目されている。

- **実装を目指す主な事業内容**

○事業:自動運転バス(End-to-End学習型AI)

活用技術	事業概要
自動運転バス(End-to-End学習型AI)(※)	1. 地域交通空白の解消 交通空白地となっている生路・藤江小学校区に、高齢者や移動困難者を対象とした共助版ライドシェアを構築し、地域住民によるボランティア運転手体制を拡充。同時に、自動運転技術を仕組みに転用することで運転手不足の課題を解消し、持続可能な交通モデルを実現する。
	2. 未来技術の導入 自動運転AI技術を活用した車両の社会実装を進めることで、安全性を確保しながら柔軟な移動選択肢を提供。
	3. 連携による推進体制 地元住民、民間事業者、大学、行政が共同で参画し、持続可能な交通システムを目指すコンソーシアムを構築。



東浦町内を運行しているコミュニティバス
東浦町運行バス「うらら」

2 事業概要説明会

(1) 日時

2026年5月15日（金）午後4時から午後5時

(2) 内容

- ・内閣府事務局及び関係省庁との顔合わせ
- ・事業概要及び今後の進め方の確認
- ・地域実装協議会設立に向けた説明

3 今後の予定（案）

- ・地域実装協議会の設立
- ・地域交通課題の整理
- ・関係機関との協議
- ・地域の実情に応じた移動サービスの検討
- ・実装に向けた事業スキームの検討

今後のスケジュール（案）

2026年5月	事業概要説明会
2026年6月～	関係機関との協議・地域課題整理
2026年夏頃	地域実装協議会の位置付け整理
2026年度	地域の実情に応じた移動サービスの検討
2026年度以降	実装に向けた事業スキーム整理